

学術情報センターだより第8号（図書館報YPU Library第27号）

発行：2019年9月1日

◆山口県立大学学術情報センター

情報管理室：電話 083-928-5475

研究支援室：電話（内線） 5476

E-mail:gakujo@yamaguchi-pu.ac.jp

◆山口県立大学図書館

電話 083-928-0522

E-mail:lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

◆郷土文学資料センター

目次

1.研究支援について 1・2

2.図書館の取り組み 3

◇春～秋の展示 ◇学生協働

3.選択型FD/SD開催報告 4

編集後記 4



1. 研究支援について

【科研費申請に向けて】

令和2(2020)年度科学研究費助成事業（科研費）申請の時期を迎えました。

今回の公募における主な変更点としましては、若手研究者の挑戦機会拡大と挑戦的な研究促進のために重複制限が緩和されたことが挙げられます。

例えば、博士の学位取得後8年未満の研究者が1人で行う「若手研究」に応募できる研究者は、「基盤研究（S・A・B）」にも研究代表者として重複応募できるようになります（ただし、両方採択された場合には後者を優先）。

また、2017年度公募から創設され、採択率が10%前後と厳選された研究区分となっている「挑戦的研究（開拓・萌芽）」については、これまで「萌芽」のみ可能だった「基盤研究B」との重複申請が「開拓」においても可能となります。

なお、これまでと同様に、科研費を含む公的な研究費の管理・監査体制が整っていることが研究機関に求められています。このことに関して、本学に所属するすべての研究者の皆様におかれましては、研究倫理eラーニングコース（eL CoRE）を、年1回必ず受講していただくようお願いいたします。（2ページ目に続きます）

1. 研究支援について (つづき)

【研究の動向】

2012年の「サンフランシスコ研究評価宣言 (DORA)」や英国で2014年から始まったREF (Research Excellence Framework) など、「責任ある研究評価・測定 (Responsible Metrics)」への関心が世界的に広がりを見せています。日本においても、科学技術政策研究所 (NISTEP) が論文データベース分析を通じて研究活動とその動向を測定し可視化した「サイエンスマップ」を定期的に公表するなど、論文数や引用数、いわゆるビブリオメトリクス指標に基づきながらも、研究の発展につながる評価手法を開発する試みが続けられています。評価の観点として、アウトプット評価からアウトカム評価への移行と見ることも可能かもしれません。

日本における研究費の動向をまとめた平成30年度科学技術研究調査 (総務省統計局) によると、日本全体の2017年度における研究費は約19兆円。USドル換算では1,913億\$と、アメリカ5,111億\$、中国4,512億\$に次いで世界第3位です。

日本の研究費約19兆円のうち、企業が約13.8兆円、大学が約3.6兆円、非営利団体・公的機関が約1.6兆円と、企業が大学の4倍近い研究費を投じています。

基礎研究、応用研究、開発研究という性格別の区分では、図1のとおり、企業の研究費は開発研究が最も多く、大学は基礎研究が最も多く、次いで応用研究、開発研究の順となっていることが分かります。

では、本学における研究費の動向はどうなっているのでしょうか。

今年度2019年度予算における教員教授研究費は約4,000万円です。本学が法人化した2006年度に36.8万円だった研究費の基礎配分額は2015年度に18万円となり、今年度も同額、その合計約1,700万円です。残る約2,300万円が、いわゆる「競争的」研究費です。過去には国際共同研究やCOC事業等の特別研究費によって「競争的」研究費だけで4,000万円を超え、教員教授研究費の総額が約7,000万円となった時期もありました。配分を基本とする「福祉国家」政策から競争を基本とする「新自由主義」への移行は、本学においても進展していることがうかがえます。

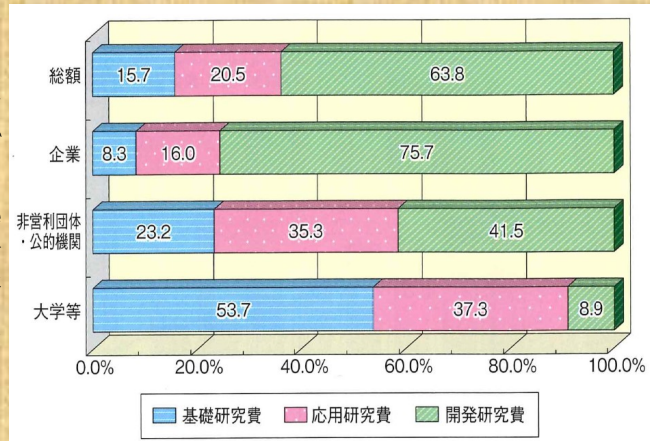


図1：研究費の性格別支出割合 (平成29年度)

【出典：『統計でみる日本の科学技術研究 平成30年 科学技術研究調査の結果から』 (総務省統計局)】

【ピアレビューについて】

研究を評価する方法として、最もよく知られているものが、ピアレビューです。元々は、これまで明らかになっていなかった新たな知見、つまり研究による「発見」を確かめるには同じ専門領域の他の研究者 (ピア) によって評価 (レビュー) するより他ないという考えに基づいて行われる審査のことでした。ピアレビューという言葉はさらに広い意味で用いられるようになり、科研費の審査においても、本学の生命倫理委員会審査においても「ピアレビュー」が行われています。そのいずれも、研究の質向上に向けた重要な取り組みであることには変わりはありません。

最後に、やや我田引水となりますが、今年度の科研費申請スケジュールは図2のとおりです。ぜひ申請の際には、「ピアレビュー」制度をご利用ください。お待ちしております。

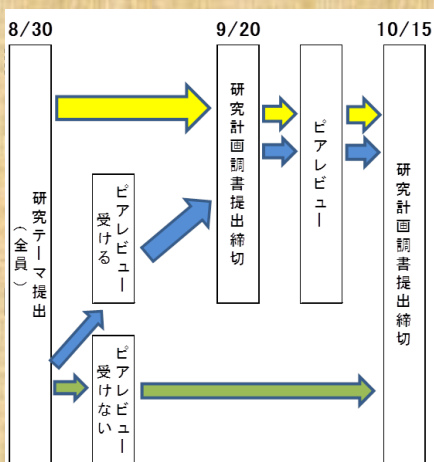


図2：今年度科研費申請スケジュール

2. 図書館の取り組み

◇春の展示「万葉集」「令和」の由来◇

2019年5月1日、元号が『平成』から『令和』になりました。

皆さまも既にご存知かと思いますが、『令和』の由来は万葉集からです。

《初春の令月にして気淑く風和ぎ》
しよしゆん れいげつ きよ かぜやわら

梅は鏡前の粉を披き蘭は珮後の香を薫らす》
きようぜん こ ひら はいご こう かお

そこで、本学図書館でも万葉集に触れてもらおうと5月22日から6月27日まで万葉集コーナーを設けました。

新元号発表の新聞記事、もともとあった歌の掲載ページ、万葉集に関する書籍を展示しました。万葉集を少しでも身近に感じてもらうたでしょうか。

写真1・2：新元号発表の新聞記事や『令和』由来に関する展示



◇夏の展示～ブックハンティング～

令和元年6月25日～7月24日、南キャンパス図書館にてブックハンティングを開催しました。

ブックハンティングとは、特設コーナーに展示してある本から、「読んでみたい!」「図書館にあったらいいな」という本に投票してもらい、その投票数によって、購入するか否かを決定するものです。

今回も多くの方に投票いただきました。ありがとうございました。

ブックハンティングによって購入が決まった本は127冊です。購入する本や投票数などは、南キャンパス図書館、北キャンパス図書室に掲示していますので、ぜひご覧ください。



◇秋の展示～日本近代国家のはじまり～

寺内正毅氏の没後100年を記念して、本学図書館が所蔵する桜園寺内文庫の明治元勳ゆかりの資料で、近代日本の歴史像を解明するうえで非常に貴重な資料群からいくつかを選び、公開します。

展示期間は令和元年11月5日(火)～令和2年1月31日(金)です。

ぜひこの機会に図書館までお越しください。

名称：山口県立大学図書館盛り上げ隊
学生と図書館員全員で協力し、県立大学図書館の利用促進・学生の読書推進活動を行うために図書館の学生協働で2019年度に全学的に参加希望者を募り、14名でスタートしました。

◇学生協働：YPU LEC (Yamaguchi Prefectural University Library Excitement Corps)

図書館をより使いやすく、より活用できるように様々な活動に取り組む(利用者の満足度向上を図る)こととして、まず、南キャンパス図書館の図書排架先をわかりやすくするため、書棚のサインを作成しました。

これからは書架の案内図の作成、お勧め本コンテスト、オリジナルグッズの作成(クリアファイル・しおり等)を行う予定です。

9月5日～6日には、島根大学で開催される第9回大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加し、活動内容をポスター発表する予定です。

3. 選択型FD/SD開催報告

令和元年7月31日に選択型FD/SDを高等教育センターと共催で開催しました。

今回は『科研費について』と『サイバーセキュリティ対策について』の2部構成でした。

まず、『科研費について』は、科研費申請・採択を目指す研究者に向けた内容でした。田中マキ子副学長より、科研費獲得のために必要なポイントや「共に高めあえる大学」を目指す取り組みについての説明がありました。田中副学長自身の研究への思いや体験を交えた、とてもわかりやすく、引き込まれるお話でした。科研費申請スケジュールについては、この学術情報センターだよりの2ページ目でも少しその内容をいれています。

昨今、悪意を持ったスパムメールに不正プログラムが設定されている場合があります。知らずに添付ファイルやリンク先をクリックすると使用しているパソコンが乗っ取られるケースがあります。『サイバーセキュリティ対策について』では、山口県警の協力のもとで実際にケースを体験し、その脅威を知ると同時に予防策等を理解するという内容でした。



写真3：『科研費について』

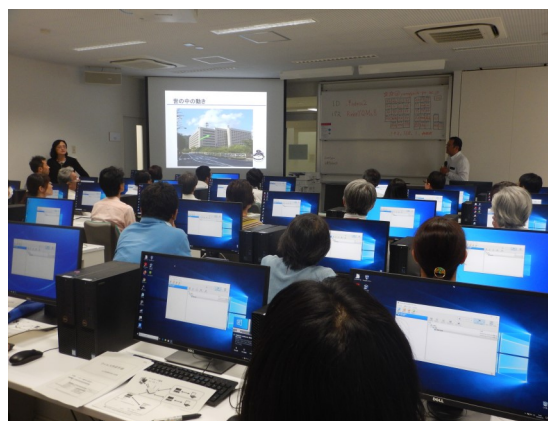


写真4：『サイバーセキュリティ対策について』

編集後記

今回の学術情報センターだよりは、科研費の申請時期が近づいてきたので、科研費に関する内容が多くなっています。全学FD/SDで配布できるように、締切をいつもより早めにし、心を鬼にして作成しました。ご協力いただいた皆さまありがとうございました。

ちょっとした合間に読んでいただくと幸いです。



学術情報センターだよりの第8号
(図書館報YPU Library 第27号)